

(一)

正月六日 小嶋江年頭使酒式升代銀七拾匁・今庄柿「」代式拾六匁

数子式袋被持喜兵衛使二而之三品串柿壺束お春江遣ス

同日 左義長わら拾束・中判式状之扇子八本但小嶋并岩堀聳入二度

分出ス、九左衛門・とよ吉江渡ス

十日 森田寺年頭参り源太郎、但午年秋初穂米壺斗同日伊助持行

年玉奥方香貫共源太郎之達ス、同時鷲塚嘉右衛門方へも被立寄

十二日 御講初当番与兵衛方自分参り

十八日 岩堀江年礼二行、但十七日小嶋利兵衛来り泊り候二付同道二而

浅宮へ行致一泊

十九日 昼飯後岩堀を出牧安へ着一宿、宿料現銀はらひ

廿日 村松二一宿、其内ニ諸家中年礼廻勤

廿一日 村松二而昼飯致シ牧安へ立寄帰村

同日 夜重助方江よばれ

廿四日 朝嘉三右衛門嫁祝義二付使来り候得共不行、酒札壺升被持遣候得共不受、送

膳不来、晚源太郎酒二行、酒壺合斗・するめ二切もらひ

廿六日 朝宮岩堀家内病氣見廻多三行泊り

廿七日 多蔵岩堀二逗留、安沢弥右衛門・新左衛門兩人年礼二見へ昼後來り

晚方兩人帰村

廿八日 昼過多蔵浅宮へ致帰村

二月三日 舟森二付此法へも使人あるき善六・村長善吉へ申来ル処不行

四日 朝作太夫万寿五ツ・蠲半ばひ持参り申候

四日 北の方土江茶実植、此日彼岸法会也

(二)

四日 森田院主不幸為名代源太郎香料見舞持参

被致遣ス、昼後帰村、葬式は正月廿五日、不参

五日 御代様御講懸銀式匁、宿平右衛門、講中平右衛門・甚右衛門・与兵衛

儀兵衛・利兵衛・彦右衛門・和助・加藤之八軒

六日 昼後西勇太夫・弥次右衛門前道直シ嘉左衛門ト勇太夫・弥次右衛門ト此方四人斗

二而直ス様嘉左衛門へ申聞候所嘉左衛門・勇太夫自己之了簡を以大勢触廻り

殊二理右衛門へ頼など、申事触步行候由、酒式升晚方村へ被買

別二壺升此方へ遣ス、代三拾三匁新兵衛へ求メ、是ハつき石十斗り道傍ニ

有之候を座替致候二付遣ス、長次郎・甚右衛門・勇太夫・庄助・勘左衛門

弥三右衛門・久蔵・喜作・門左衛門・藤七・多左衛門・三右衛門・忠左衛門・十助・市之助・久右衛門

伊右衛門・慶蔵・新兵衛

九日 差紙見違嘉右衛門一義二付兵庫源右衛門へ行、間違嘉右衛門行筈、昼飯後出かけ

源右衛門へ行、源五郎方ニ而馳走ニ成、晩方帰村

十五日 祭礼使来、鷲塚嘉右衛門へ行、色万寿五ツ持参、夕方帰村

十三日 お春来り、十五日昼後鷲塚行留主中野中へ使来り

お政不快ニ付お春野中へ帰り

十六日 小嶋お政見舞行、同日晩方帰村、五拾刃斗ねりようかん一持参

慶恩講勤、宿和助方 二尊仏様并新御書請

招法中宿理右衛門千歩寺新発意役僧卜二人随応寺

空誓十九日ニ三人八ツ座ニ廿日中迄下宿法中まかなひ理右衛門

寄進

廿日 昼後村長善吉へ行、三右衛門恠甚太郎江相談申聞ケ

(四)

廿一日 夜利兵衛・直右衛門兩人御再興法中宿礼持来り、不受直ニ返ス

廿七日 嘉右衛門盗地ニ付御用ニ付掌政館ニ行、同日晩帰村、先年地割

廿年余以来盗置候南纏百歩同村方江嘉右衛門へ差出候様

正政館ニおゐて竹内源藏被申付之候、廿三四年分年貢

之処は嘉右衛門盗徳ニ相成申候、其砌罷出候人千代藏

村長善吉恠作太夫・相役次郎兵衛・同甚太郎・小前内甚右衛門

つげ右衛門・儀右衛門・自分ニ八人行、牧安ニ而昼飯致し帰りニ酒吞

此時払不致、村方へ払筈

三月四日 右地面百歩竊置候ニ付村長善吉方へ行、高持一統相寄せ

示談之上嘉右衛門義十人頭取揚高持末席申付使柳助を以申越候、返答

如何申候哉、昼時ニ相成候ニ付柳助返り不待帰宅

前同日 昼後浄土寺村佐吉女松苗十式本持来り、北土江はたニ植此代銀

十二本ニ而七拾刃同人江現銀相渡ス

七日 要ひばの木老本儀右衛門へもらひ亀次郎・喜兵衛兩人掘ニ行

庭へ植ル、此代孟宗四本儀右衛門へ遣ス、使喜兵衛を以

八日 朝へ安沢牧田方江よはれ泊り

九日 昼後安沢へ帰村、手ぬくひ一・ふくりんたはこ入一ニ品土産持行

十四日 丸岡小原へ使来り、同道致昼後行、小原ニ泊り、武兵衛不幸香

貢持行銀式拾刃、小原へ柏油式升・黒さと壱斤・ひん付式ツ

メ三品もらひ、此方へ白さと壱斤入一・手ぬくひ一・いもの子壱袋

香貢式拾刃メ四品遣ス

十五日 昼後帰村もとりがけ一本田山田江寄、中村酒屋へ寄帰り

(五)

十八日 出福、米善易了弔ニ行、拾刃香貢、五刃おはるより

瓢箪壱ツ米善へうり来り

十九日 屋敷北ノ方道石十助境之方江出ス、喜兵衛一日ニ仕廻

廿三日 北の方道東回の端江石板拾七枚不足ニ付手前へ出喜兵衛ニ被引

- 十七日 源太郎丸岡祭礼二行小原ニ泊り、銀貳拾匁小原へ被持遣ス
- 十八日 源太郎帰村
- 廿六日 多蔵・亀次郎同道吉崎江参詣、源太郎福井行
- 廿七日 昼後お春野中江帰村、送喜兵衛
- 同日 免取村甚太夫来り、蔵六畳間家の四方瓦屋根致吟味
一日かゝり、泊り、廿八日朝飯後引取致、一日手間代銀五拾匁取り
- 廿八日 朝月次御講当番相勤
- 四月三日 昼後岸水村清三郎頼ニ喜兵衛行、不逢、内江申置
- 朔日 付落、三味腰五十分・神明中成手七拾分斗・六反田はんぬきくろくろゞ三ヶ所
わたまき、喜兵衛休日多蔵・亀次郎・源太郎・竹々四人にてまく
- 四日 昼後広瀬村広徳寺殿立寄
- 七日 村松寿翁銀子返済ニ見へ昼寝起ニ帰福致ス、ひじつき一枚もらひ
九谷猪口一ツ進上申
- 九日 野中利兵衛領分境棒銘書てもらひ度申同道ニ而野中迄
来て呉候様申参り、晩方帰村
- 十日 朝野中へ行、棒銘書泊り、翌日十一日昼後帰村
- 十一日 大筆老本小嶋へかり来り
- 小嶋ニテ認め棒銘 従是 方角 本保県支配所越前国坂井郡野中村
- (六)
- 十三日 多蔵・佐太郎兩人三国祭二行、夕方帰村、銀百匁多蔵江
銭貳百文佐太郎江
- 十七日 多蔵出福笠買二行、昼寝起帰村
- 同日 昼後金四郎を雇ひ馬ニ而田搔、同昼後へ竹苗取ニかゝる
- 十八日 早稲、まこも田八十歩、大水口貳百歩、古苗代七拾歩、多三・亀次郎・喜兵衛
- 十九日 早稲、六反田百三拾分斗
- 同日 晩稲、丁田・くろ合九拾分斗、春の木百五十分、井川百貳十分
同、井川六拾分、手勢トおいな・門左衛門女
- 廿日 もち、井川東百貳拾分、ほり田五拾歩 多三・亀次郎・喜兵衛
- 同日 万徳早稲苗代七拾歩斗
- 廿二日 鷺塚嘉右衛門祭ニ来り、五匁の万寿札壹枚・黒さと少ミやけ、晩帰り
村松喜十郎来り、菓子貳拾匁斗土産、晩帰福
- 同日 浅宮芳太郎一人見へ泊り、土産ようかん五拾匁斗・万寿貳拾匁二品
同人滞留
- 廿三日 昼後芳太郎帰村
- 廿四日 晩陀羅葉一本南の方へ北庭江植替ル、喜兵衛
- 五月八日 麦打、多蔵・亀次郎・源太郎・喜兵衛・竹・平次郎々六人、是麦打落し
十老表貳斗、外ニ貳はん麦
- 同日 村松寿翁来り、昼飯・昼寝致し昼後帰福、江上次郎左衛門見へ
- 十三日 岸水村文右衛門家内来り、泊り、翌日朝飯後帰村、山のいも少持来り

十四日 昼前山室栄助家内病死、弔二行、酒二よはれ昼時帰村
 十八日 夜四ツ時。風起り頻ニ大風ニ相成り悉屋根まくり門家長小屋
 屋根峯取、十九日朝六ツ半時。少し風落雨ニ相成申候

(七)

六月六日 出福、井原へ行、白麦壱升五合持参、同所ニ而昼飯、同日広部へ行
 不火入弍升、広部江持参、同所ニ而酒呑牧安へ来り、泊り
 七日 村松へ行、致昼飯牧安来り泊り
 八日 御坊所へ参り竹内源藏江暑気見舞ニ行、正善寺江
 立寄ようかん弍拾匁持参、致昼飯・昼寝、夫。牧安へ
 帰り夕方帰村、此時牧安現銀払致ス
 十二日 村国村五郎左衛門・高瀬村文右衛門兩人立寄紙三状五郎左衛門。到来
 七月五日 三味河戸道添大根まき、亀か淵南二十分斗三味河戸浜
 西ニ而十歩斗同時ニ大根まき
 七日 村森庄屋善吉方へ行キ、自分
 八日 昼前亀淵五十分斗そはまき、多藏・喜兵衛兩人
 廿日 「」村半四郎家内銀返済ニ来り、利足内弍拾匁引テとらせる、素麴
 三玉もらひ此方。小豆壱升被取申候
 廿一日 森田寺縁談寄合ニ付鷲塚九左衛門方へ立寄、九左衛門
 同道ニ而森田へ行、相談相済、夕方帰村
 廿六日 三国加藤。為一周忌志餅二ツ、為生賦分つむき縞
 男単物一・布も、引一足。使以下女送り来り申候
 此方。五匁かけ蠟燭二本差送申候

晦日

出福村松へ行泊り、入札人撰里長役一件ニ付清川源吾へは
 夜たゞ、ミ屋次郎兵衛方へむら松滝哉同道遊ニ行
 村松。谷町合羽屋を頼遣ス、竹内源藏へは翌八
 八月朔日 月朔日自分行清川へ五貫札壱枚遣物村松へ渡
 竹内へは白さと五拾匁持参、志比口井上健次郎

(八)

方へ行候処猪助不快、白さと弍拾五匁為見舞遣ス
 朔日昼天井弥助へ行、盆前致松、昼飯酒馳走ニ成
 村松へ帰り泊り

二日

福井。昼前帰村、安沢村祭礼角力ニ付弥右衛門・新左衛門
 兩人。申越候得共自分不参、弥右衛門方へ源太郎
 新左衛門方へ佐太郎行申候、角力為花代銀弍拾匁
 源太郎江相渡ス

四日

喜兵衛出福、むら松天井并茄子うりニ行、晚帰村

五日

御代様御講当番随応寺迄早朝喜兵衛御迎ニ
 講中平右衛門・甚右衛門・与兵衛・儀兵衛・利兵衛・和助・彦右衛門

宿加藤へ八人懸り銀式匆奉加五匁
右之節御参銭五拾壹文預り置申候

九日 出福、多蔵彼岸二付晚帰宅

十四日 福井御役所へ喜兵衛村長同道二而罷出候様申来、罷出候所為御褒美
銭札式拾貫文御下二相成候事

十五日 朝宮村岩堀江祭礼二行、二宿泊ル、但福井田辺父子兩人外二
中山次郎平ト申者祭の日ノ付合黒さと壹斤持参致ス

十七日 昼後朝宮出晚方帰村

十八日 昼後、山室京助方江祭礼ニよはれたば素麵二
持参、晚方帰村

十九日 庄屋善吉の屋敷北の方道村方ニ而者故障故
無之由、相談之上相極り候様柳助申来ル

(九)

廿三日 おはる・お若・守梅・利兵衛・小市・嶋七子息・浅宮おひろ
門左衛門・送ふさ吉・山室采助・鷲塚嘉右衛門・針原伝兵衛
安沢弥十郎・同新造

廿六日 朝岩堀帰村

九月二日 印形稲田里長平助入用ニ付相渡候様柳助申来候故
印形柳助へ相渡ス

同日 野中小嶋お若九死一生、昼四ツ時守梅を以相知らせ
同日八ツ時上刻病死致候ニ付直ニ源太郎を以
被相知候所源太郎・由右衛門・与松三人同道ニ而

暮六ツ過来り、夕飯致し、お春井お若

三日 梅・由右衛門・与松四人同道ニ而夕飯後小嶋江帰村
朝自分喜兵衛連レ野中江葬式二行、喜兵衛帰村、自分泊り

四日 昼後野中出立、兵庫へ出源五郎方江立寄夕方帰村
五日 福井藩米沢町小田竹治ト申者始而書物習二見へ
但高屋村弥助悴

十二日 出福、牧安へ着、中山次郎兵衛へ初而行馳走ニ相成、夜分次郎兵衛同道
兩人芝居見二行、札銭入用次郎兵衛出銀致ス、相濟候而より

別レ牧安へ帰り泊り

十三日 牧安ニ而不入火式升求メ中山へ前晚之礼ニ被持遣ス、同日井原へ行
昼馳走ニ相成、酔後広部行、自分需メ酒呑晚方石川彌ト申人ト

同道ニ而永平寺町袋小路石川宅江行酒夕飯馳走ニ成、同人同道魚町
八百甚へ行遊ひ払方自分出銀・相別牧安へ帰り泊り

十四日 朝飯後村松へ行昼飯酒馳走ニ相成、村松を出大工町金村誠助方へ行喜平

(一〇)

御保美礼申入ようかん考箱致持参、先へ又永平寺町石川へ行、少時咄シ

- 牧安へ帰り泊り、夕方軍談聴二行
 十五日 昼前帰村、牧安弘方現銀ニ致シ帰り
 廿六日 昼前丸岡車屋藤八・菊地采男縁談おきよ賞ニ来り、昼後、
 車屋藤八同道晩方丸岡小原江着泊り
 廿七日 留主中月次御講勤丸岡逗留車屋行并城向見物致し候
 晩方車屋藤八方ニ而山田孫左衛門面会、夕方車屋藤八方ニ而夕飯
 よはれ小原ニ泊り
 廿八日 昼後帰村
 廿九日 源太郎・甚太郎同道ニ而本保県江針原懸合一件二行キ
 晦日 六日市辰右衛門藁取ニ来候ニ付朝宮一件致咄酒被吞外ニ銀拾匁
 とらせ候、岩堀江詫二行可申と吉右衛門申候得共此方、
 差留可申候
 晦日 東向卜龜か測七十分而巳豆打人足多ニ・龜・喜兵衛
 雇人栄助・竹々五人此豆八表ト八升
 同日 晩源太郎本保、帰村、源太郎本保ニ一宿
 十月十三日 丸岡小原氏并家来ト坂部ト云侍ト上村ト云町人
 車屋藤八々五人来り、昼飯出酒出シ同日帰宅致ス
 同日 喜兵衛出福、吉村江御保美礼ニ遣ス、粒そは式升
 被指遣ス
 廿日 夜長右衛門へよばれ幸五郎・善吉兩人ト付合
 廿一日 福井本保両所針原一件礼廻ニ付多三・作大夫同道ニ而行
 (一一)
 廿三日 晩遅ニ多三帰村
 廿七日 むら松寿翁来り、昼後引取り、ようかん箱一ツもらひ
 霜月五日 長崎村辻平ト申人源如村伊藤弥平ト申方
 よりおきよ黄度旨申来り、中飯出し酒被吞帰候
 同九日 村松滝哉入来泊り、二宿致ス
 同十一日 昼後村松帰福
 同十三日 長崎村辻平昼前見へ源如・弥兵衛、おきよ一件咄ニ
 酒出シ昼飯出シ鼠半紙百枚斗もらひ
 同十四日 丸岡へ行東屋藤八ニ而休ミ、助右衛門同道源如村江遣ス
 同日晩助右衛門同道帰村、但車屋藤八方ニ而助右衛門待合セ
 同十九日 朝与平報恩講ニよはれ行キ
 同廿日 金剛寺村弥三次、糶、但米ニ而老表かへ事致ス、但前午
 年米 糶未年 今摺致候を遣ス、右午年ハ大水付泥冠リニ相成未見苦敷
 御さ候
 同日 三国加藤修輔嫁取ニ付使喜兵衛酒肴遣ス
 酒五拾匁・肴三拾匁・はな紙料ニ拾匁、嫁取
 々三品

十七日 夜かりきて喜兵衛方おり老入、善六方おすミ并小娘共式人ズ三人よび
 廿一日 味噌煮豆京八斗、塩八割・糍六割、塩老俵八拾六匁
 与平〇需ム、味噌桶大小共四本ニ一盃ニ相成申候

代林右衛門来り

廿二日 昼内報恩講、与平・助右衛門・おミよ并子共一人・おりん・おちよ・おみな・喜兵衛
 善六〇九人よび、同日早天亀次郎・源太郎兩人山中へ行

(十二)

廿五日 森田寺御院主・役僧兩人秋廻り、与助方ニ宿致ス、先方〇送り
 廿六日 朝宮舟ニ米三拾表出シ岩堀江差越ス、上乘助右衛門遣ス
 同日 朝森田院主秋廻り御勤ニ来り、札拾匁、五匁役僧
 同日 夜五ツ時亀次郎山中〇一人帰村
 霜月晦日 夜源太郎山中〇帰村、但野中ニ泊り、利平同道ニ而来り
 十二日 四日母七回御経読誦、西袋浄然寺四日迨夜より
 五日日中迄皆誦仕廻、布施式百匁致ス
 七日 村森善吉方へ行、自分・甚太郎・次郎兵衛・千代蔵〇四人寄
 八日 森前日皆済ニ相成りふ申又寄、晚方帰宅
 十二日 七ツ時〇平右衛門方へ中庄の客来ニ付咄ニ行、盆一ツ持行、長右衛門へ
 とらせ盆中大坂御城之画あり
 十三日 昼〇三右衛門方江よはれ夕方そば切、深霄ニ相成不能帰宅ニ
 三右衛門方ニ一宿致し十四日朝飯後帰宅
 廿一日 夜三右衛門をよひ酒、肴塩ふり 大根煮染 身欠糍積 イリ牛蒡
 〆三品 膳牛蒡ト人參ニ汁かけ飯 塩はまち二切
 廿二日 昼善六江およき・お玉・源次郎三人よはれ晚帰宅
 廿三日 多蔵浅宮江米代銀取ニ遣シ牧安江立寄、門左衛門出福致さぬか尋
 候所浅宮〇手紙ニ添銀拾匁出テ有、其を取福井〇多三帰村
 此時昼飯代直ニ払致候

(十三)

正月六日 西袋常然寺子息泊法話、沈香一貫ひ布施不致
 十月十七日 千歩寺新発意并徒僧二人泊り法話、ミやげ白さと箱一

寺中村憶念寺子息

同十八日 昼後右僧帰村、送り善六舩新此方〇新発意江
 ひじつき中納言御簾中様御細工物一枚致進上
 外ニ布施なし

十二月四日 西袋浄然寺泊り、母七回忌祥月明日ニ付三部
 経読誦願ひ四日〇五日日中迄ニ皆読布施式百匁